

# 安全データシート

CODE No.	96-845-56045
作成日	2025.02.10
改訂履歴	初版

## 【1. 化学品及び会社情報】

化学品の名称	ADレジン AE-6105A (主剤)
供給者の会社名称	アルプス化学産業株式会社
住 所	神奈川県相模原市中央区上溝4088
担当部門	技術部
電話番号	042-761-1524
FAX番号	042-761-6368
緊急連絡先	042-761-1524

## 【2. 危険有害性の要約】

### 化学品のGHS分類

#### 物理化学的危険性

爆発物	区分に該当しない
可燃性ガス	区分に該当しない
エアゾール	区分に該当しない
酸化性ガス	区分に該当しない
高圧ガス	区分に該当しない
引火性液体	区分に該当しない
可燃性固体	分類できない
自己反応性化学品	分類できない
自然発火性液体	区分に該当しない
自然発火性固体	区分に該当しない
自己発熱性化学品	分類できない
水反応可燃性化学品	区分に該当しない
酸化性液体	区分に該当しない
酸化性固体	区分に該当しない
有機過酸化物	区分に該当しない
金属腐食性化学品	分類できない
鈍性化爆発物	区分に該当しない

#### 健康有害性

急性毒性 (経口)	区分に該当しない
急性毒性 (経皮)	区分に該当しない
急性毒性 (吸入: 気体)	区分に該当しない
急性毒性 (吸入: 蒸気)	分類できない
急性毒性 (吸入: 粉塵/ミスト)	分類できない
皮膚腐食性/刺激性	区分2
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分2A
呼吸器感受性	分類できない
皮膚感受性	区分1
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	分類できない
生殖毒性	分類できない
特定標的臓器毒性 (単回暴露)	分類できない
特定標的臓器毒性 (反復暴露)	分類できない
誤嚥有害性	分類できない

#### 環境有害性

水生環境有害性 短期 (急性)	区分3
水生環境有害性 長期 (慢性)	区分3
オゾン層への有害性	分類できない

### GHSラベル要素

#### 絵表示またはシンボル



#### 注意喚起語

警告

危険有害性情報

- 皮膚刺激
- 強い眼刺激
- アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
- 水生生物に有害
- 長期継続的影響によって水生生物に有害

注意書き

【安全対策】

- 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
- 取扱後は、顔／手をよく洗うこと。
- 粉塵／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。
- 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
- 環境への放出を避けること。

【救急処置】

- 皮膚に付着した場合：多量の水と石鹸で洗うこと。
- 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
- 皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診察／手当てを受けること。
- 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- 目の刺激が続く場合は、医師の診察／手当てを受けること。
- 皮膚に付着した場合：特別な処置が必要である。（【4.応急処置】の項を参照）

【保管】

該当情報なし

【廃棄】

- 内容物／容器は都道府県／市町村の規則に従って廃棄すること。

【3. 組成及び成分情報】

化学物質・混合物の区別

混合物

化学名又は一般名

ビスフェノールA型エポキシ樹脂等液状分並びに無機質系充填剤、着色剤等

GHS分類に寄与する成分（不純物及び安定化添加剤を含む）

CAS No.	化学名	含有量	通知義務対象物質	改正化管法 (R3)	毒劇法
14808-60-7	結晶質シリカ	3.70%	政令番号:165-2		
1309-37-1	酸化鉄	3.35%	政令番号:192		

【4. 応急措置】

吸入した場合

直ちに空気の新鮮な場所に移動させ安静にし、呼吸しやすい姿勢で休息させること。必要に応じて医師の診察を受ける。硬化剤との混合物の蒸気を含め吸入により、かゆみ／気分が悪い等の異常が生じた場合も同様に医師の診察を受ける。

皮膚に付着した場合

直ちに汚染された衣類、靴等をすべて脱ぐこと／取り除くこと。石鹸を使い、皮膚を多量の流水／シャワーで十分洗い流す。その後医師の診察を受ける。

眼に入った場合

外観に変化が見られたり、痛み、かゆみ等がある場合、また気分が悪い時は、速やかに医師の診察を受ける。

飲み込んだ場合

汚染された衣類、靴等は他の人に触れないよう密閉容器に回収し処分した方が望ましい。汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

眼に入った場合

清浄な水で注意深く、最低15分以上目を洗浄する。この際、瞼を指でよく開いて瞼と眼球の隅々まで水がよく行き渡るように洗う（コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄を続けること）。その後、直ちに眼科医の診察を受ける。

飲み込んだ場合

眼の刺激がつづく場合や気分が悪い時は、直ちに眼科医の診察を受ける。

飲み込んだ場合

水で口の中を洗浄し、大量の水または牛乳を飲ませる。

飲み込んだ場合

無理に吐かせてはならない。

飲み込んだ場合

直ちに医師の診察を受ける。

飲み込んだ場合

被災者に意識がない場合には、口から何も与えてはならない。

応急措置をする者の

保護に必要な注意事項

救助者は保護手袋や保護眼鏡などの保護具を着用し、衣類や手につかないように注意を払うこと。

【5. 火災時の措置】

必要な消火剤

一般火災用（粉末・泡・炭酸ガス・乾燥砂）

使ってはならない消火剤

高圧棒状水（火災を拡大し危険な場合がある。）

火災時の特有の危険有害性

燃焼時には、一酸化炭素や二酸化炭素等を含む有害性のガスが発生する恐れがあるので吸入しないよう注意すること。容器が加熱されると、破裂する恐れがある。

特有の消火方法	可能であれば、可燃性の物を周囲から取り除く。適切な保護具（耐熱性着衣・呼吸保護具など）を着用する。風上から作業する。初期の火災には、炭酸ガス消火器や乾燥砂を用いる。高温に晒される密閉容器は水を噴霧して冷却する。
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	大規模火災の際には、泡消火剤などを用いて空気を遮断することが有効である。保護衣（耐熱性着衣、化学用保護衣等）、空気呼吸器、循環式酸素呼吸器、ゴム長靴。

## 【6. 漏出時の措置】

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	暴露防止の為、作業の際には適切な保護具（手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル、保護面等）を着用し、皮膚への接触やガスの吸入を避けるように注意する。関係者以外は立ち入り禁止とし、引火、防爆に注意し、十分な換気を行う。風上に留まり、低地から離れる。
環境に対する注意事項	漏出物を回収すること。河川等に排出され、環境中へ影響を起こさないように注意する。大量流出時には盛り土などで囲って流出を防止する。
回収、中和	乾燥砂、土、おがくずなどに吸着させ密閉容器に回収し、安全な場所に移す。付着物、廃棄物などは関係法規に基づいて処置をすること。
封じ込め及び浄化の方法及び機械二次災害の防止策	危険でなければ漏れをとめる。付近の熱源、着火源、高温体を取り除き、付近の可燃物も除去する。万が一の着火に備えて消火器を用意する。衝撃、静電気などで火花が発生しないような材質の用具や防爆型の装置を用いて回収する。

## 【7. 取扱い及び保管上の注意】

取扱い	
技術的対策	目、皮膚、粘膜との接触を避け、着衣への付着を避けるよう適切な保護具を着用する。使用する機器及び設備には、防爆型（安全増し）を用い、静電気対策として装置にはアースを取るよう設備する。取扱い場所は火気厳禁とし、周囲でのスパーク、高温物の使用を禁止し、作業中は帯電防止型の作業着・靴等を使用する。使用前に取扱注意事項を読み、理解してから取り扱うこと。
局所排気・全体換気	容器はその都度密栓し、蒸気の発生を防止し、屋外や換気の良い場所で作業する。局所排気設備等排気装置を設け、蒸気の滞留を防止する。煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
衛生対策	休憩所等には洗顔、洗眼、手洗い等の設備を設け、取扱い後に手、顔等をよく洗う。この製品を使用するときに飲食または喫煙をしないこと。
安全取扱い注意事項 接触回避	過去にアレルギー症状を経験している人は取り扱わないこと。強酸化剤、強酸、強アルカリ、また硬化剤との接触を避け、火気、熱源から遠ざけて保管する。また、消防法により第1類、第6類との接触を避けて保管する。
保管	
技術的対策	消防法に基づいた設備を有する倉庫／場所に密閉して保管する。
安全な保管条件	密閉容器に入れ、直射日光、高温、高湿を避け、涼しい／換気の良い危険物倉庫に保管する。
混触危険物質	強酸化剤、強酸、強アルカリ、硬化剤等活性水素含有物質。消防法による第1類、第6類物質。
安全な容器包装材料	供給された容器以外の容器で保管しないこと。

## 【8. 暴露防止及び保護措置】

管理濃度	設定されていない
許容濃度	
日本産業衛生学会	設定されていない
ACGIH	設定されていない
設備対策	局所排気設備等排気装置を設け、蒸気の滞留を防止する。使用する機器及び設備には、防爆型（安全増し）を用い、装置にはアースを取るよう設備する。取扱い場所は火気厳禁とし労働安全法、消防法等の関連法規に準拠して作業する。また熱／火花／裸火／高温等の着火源となるものを置かないようにする。禁煙。休憩所等には洗顔、洗眼、手洗い等の設備を設け、取扱い後に手、顔等をよく洗う。
保護具	必要に応じて保護手袋、保護眼鏡、保護衣、保護面等を着用すること。暴露または暴露の懸念がある場合、また刺激、発疹等異常のある場合は、医師の診察／手当てを受けること。

呼吸用保護具	有機ガス用防毒マスク（密閉場所では送気マスク等）。
手の保護具	ナイロン・テフロン・耐性ゴム製等有機溶剤や化学薬品が浸透しない材質の手袋。
眼、顔面の保護具	保護メガネ、ゴーグル。
皮膚及び身体の保護具	長袖・長ズボンの衣服を着用し、必要に応じて合成樹脂又は、ゴム製の前掛け、腕カバーを用いる。皮膚を直接曝さず、化学薬品が浸透しない材質が望ましい。
衛生対策	作業中は飲食、喫煙をしないこと。 休憩所等には洗顔、洗眼、手洗い等の設備を設け、取扱い後に手、顔等をよく洗う。

## 【9. 物理的及び化学的性質】

物理状態	パテ状
色	茶色
臭い	エポキシ臭
融点/凝固点	データなし
沸点又は初留点及び沸騰範囲	データなし
可燃性	あり
爆発下限界及び 爆発上限界/可燃限界	データなし
引火点	180℃
自然発火点	データなし
分解温度	データなし
pH	データなし
動粘性率	データなし
溶解度	水には殆ど溶けない。ほとんどの有機溶剤に易溶解
n-オクタノール/水分配係数	データなし
蒸気圧	データなし
密度及び/又は相対密度（比重）	0.55
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし

## 【10. 安定性及び反応性】

安定性	通常の実取扱いに於いて安定。
化学的安定性	通常の実取扱いに於いて安定。
危険有害反応可能性	通常の実取扱いに於いて安定であるが、強酸化剤、強酸、強アルカリ、エポキシ用硬化剤と反応し発熱する。場合によっては激しく反応し発熱する。
避けるべき条件	高温多湿
混触危険物質	強酸化剤、強酸、強アルカリ、エポキシ用硬化剤（特に1、2級の脂肪族アミンと激しく反応する。）消防法による第1類、第6類。
危険有害な分解生成物	一酸化炭素、二酸化炭素

## 【11. 有害性情報】

急性毒性	経口	ATEmix=4,051mg/Kg（区分に該当しない）（未知成分34.5%を含む）
	経皮	ATEmix=9,582mg/Kg（区分に該当しない）（未知成分34.5%を含む）
	吸入	データ不足（分類できない）
皮膚腐食性/刺激性		区分2の物質を26.6%含有している（区分2）（未知成分31.1%を含む）
眼に対する重篤な 損傷性/眼刺激性		区分2の物質を40.1%含有している（区分2A）（未知成分31.1%を含む）
呼吸器感作性		データ不足（分類できない）
皮膚感作性		区分1の物質を40.1%含有している（区分1）（未知成分50.7%を含む）
生殖細胞変異原性		既知成分情報からは区分に該当しないがデータ不足である（分類できない）
発がん性		データ不足（分類できない） 粉体状態の結晶質シリカは区分1、カーボンブラックは区分2の物質であるが、これらは粉塵暴露情報に基づく有害性情報であり、ペースト状の本製品においては、その形態から適用対象外の情報と考えられるが、切削や焼却処理等のように状態が変化した場合に粉塵暴露に基づく注意が必要な可能性がある。
生殖毒性		既知成分情報からは区分に該当しないがデータ不足である（分類できない）
特定標的臓器毒性（単回暴露）		データ不足（分類できない）
特定標的臓器毒性（反復暴露）		データ不足（分類できない）
誤嚥有害性		データ不足（分類できない）

(ビスフェノールA型液状エポキシ樹脂として)		
急性毒性	経口	LD50=11,400mg/Kg (ラット)
	経皮	LD50≥1,600mg/Kg (ラット)
	吸入	飽和蒸気8時間で死亡せず(ラット)
皮膚腐食性/刺激性	皮膚刺激性	ANSI Class 2 長時間あるいは頻繁に接触すると皮膚に刺激性あり。 ウサギ なし～中程度
眼に対する重篤な 損傷性/眼刺激性	ウサギ	なし～軽度
呼吸器感受性/皮膚感受性	人に感受性を生じさせる恐れ有り。ヒト、モルモット 陽性 健康障害防止のための作業環境管理、保護具の着用、定期健康診断等の労働衛生上の 処置をとる必要がある。 <sup>3)</sup>	
発がん性	IARCによるヒトの発がん性リスクの総合評価は、グループ3(ヒトへの発がん性があると分類できない。)である。	
変異原性	労働省の有害性調査の結果、微生物を用いる変異原性試験及び哺乳類培養細胞を用いる染色 体異常試験の2種類の変異原性試験で所定の基準を超える変異原性が認められており <sup>1)</sup> 、 健康障害を生じる可能性がある。労働省指針 <sup>2)</sup> に定める措置をとる必要がある。	
生殖毒性	生殖毒性試験、催奇形性試験のいずれにおいても、親動物毒性がみられる用量で、生殖及び 発生への影響が認められない。	

硬化剤との混合物に対して下記労働省通達あり。

「労働基準局長通達 昭和51年6月23日付け基発第477号」  
エポキシ樹脂の硬化による健康障害の防止について

#### 【1 2. 環境影響情報】

水生環境有害性 短期(急性)	区分2の物質を23.2%含有している(区分3)(未知成分47.7%を含む)
生態毒性	甲殻類(オオミジンコ)48時間 EC50=1.7mg/L (ビスフェノールA型液状エポキシ樹脂として)
水生環境有害性 長期(慢性)	区分2の物質を23.2%含有している(区分3)(未知成分76.8%を含む)
残留性・分解性	急速分解性がない BOD=0% (ビスフェノールA型液状エポキシ樹脂として)
生体蓄積性	低い BCF≤42 (ビスフェノールA型液状エポキシ樹脂として)
オゾン層への有害性	データ不足(分類できない)
環境影響	漏洩、廃棄などの際には、環境に影響を与える恐れがあるので、取扱いに注意する。 特に、製品や洗浄水が地面、河川、排水溝に直接流れないように対処すること。
土壤中の移動性	データなし

#### 【1 3. 廃棄上の注意】

化学品(残余廃棄物)	廃棄物の処理及び清掃に関する法律および関係する法令に従って処理を行うか、許可を受けた 処理業者に委託して処理をする。
汚染容器及び包装の安全で かつ環境上望ましい廃棄	容器や包装なども同様に関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行うか許可 を受けた処理業者に委託して処理を行う。 容器、包装等を洗浄した排水等を、地面や排水溝へそのまま流さない。
リサイクルに関する情報	データなし

#### 【1 4. 輸送上の注意】

国内規制	
陸上輸送	消防法、労働安全衛生法に定められた輸送方法に従うこと。
海上輸送	船舶安全法に定められた輸送方法に従うこと。
航空輸送	航空法に定められた輸送方法に従うこと。
国際規制	航空輸送はIATA、海上輸送はIMDGの規則に従う。
国連分類/国連番号	国連分類: Class 9 容器等級: III 指針番号: 171 分類番号: 3082
輸送又は輸送手段に 関する特別の安全対策	取扱い及び保管上の注意の項の記載による。尚、容器に漏れないことを確かめ、転倒、 落下、損傷のないように積み込み、荷崩れ防止を確実にを行う。その他消防法等の法令に定 めるところに従う。保護具、消火器等を携帯する。 その他、『6.漏出時の措置』、『7.取扱い及び保管上の注意』を参照。

## 【15. 適用法令】

消防法	非危険物 指定可燃物
労働安全衛生法	第57条の2 名称等を通知すべき有害物 政令番号：165-2 (結晶質シリカ) 政令番号：192 (酸化鉄)
労働基準法	変異原性化学物質含有 (ビスフェノールA型液状エポキシ樹脂) 感作性物質含有 (ビスフェノールA型液状エポキシ樹脂) 疾病指定化学物質含有 (ビスフェノールA型液状エポキシ樹脂)
化審法	優先評価化学物質 (ビスフェノールA型液状エポキシ樹脂)
改正化管法 (2021:R3)	該当せず
毒物及び劇物取締法	該当せず
輸出貿易管理令	別表第1 16項の(2)に該当するので、経済産業省ガイドラインの参照や事前相談が望ましい。

## 【16. その他の情報】

危険・有害性の評価は必ずしも十分ではないので、取扱いには十分注意して下さい。  
本製品を御使用の際には、必ず下記文献を御読み下さい。  
「エポキシ樹脂及び硬化剤の正しい取扱いの手引き」  
エポキシ樹脂技術協会編

## &lt;引用文献&gt;

- 1) 労働基準局長通達 平成6年6月6日付 基発第341号の2
- 2) 平成5年5月17日付 基発第312号の2の別添  
「変異原性が認められた化学物質による健康障害を防止するための指針」
- 3) 労働基準局長通達 平成8年3月29日付 基発第182号

- ・本SDSは、当該製品の安全な取扱い、保管等のために作成されたものであり、製品の納入仕様、保証事項を記載したものではありません。
- ・本SDSの記載情報は、現時点に於ける弊社の最善の知見をもって作成されたもので、通常の可能な範囲で調査した結果、以上のとおりとなりましたが、全ての分野における情報を確実に把握しているといえるものではありません。十分な配慮に基づき作成されているものではありませんが、その内容につきましては明示又は黙示のいかなる保証をするものではなく、また品質を特定するものでもありません。
- ・本SDSの情報はここで指定された製品についてのみ適用されるものであり、製品が加工、処理または他の材料と組み合わされた場合等、状態が変更された場合においては有効ではありませんので、各使用者様の責任におかれまして、十分な事前調査、確認、実験等を行った上でご使用ください。
- ・すべての化学品には未知の危険性があり、全てを網羅することは困難を極めます。使用に際しては、危険性に対しての十分な注意、調査、確認を行った上で各使用者様の責任におかれましてご使用ください。
- ・本SDSの記載情報は、新たな知見、情報等を弊社が知り得た場合、順次更新を行っていくものであります。

